

天塩町有形文化財「天塩巖島神社社殿」



天塩巖島神社は、文化元年（1804年）の9月に福山（松前）の豪商栖原小右衛門が、天塩漁場の高处（現海岸通5丁目）に弁財天を祀ったのが始まりとされている。

明治政府は、神社の主体性を確立するために「神仏分離令」を布告し「神社は国家の宗祀」と位置づけ「郷社定則」によって社各制度の整備を行った。この間、当該神社は、大正10年には町村が祀る「村社」の社格に列し、昭和2年には地方庁が祀る「郷社」に昇格し、天塩郡全体の守護神として祀られていた。戦後、民主主義体制の国家になって、憲法は国民の宗教の自由を規定し、国又は地方公共団体の祭事を禁じ、社格もなくなり宗教法人としての届出で公認の神社宗教となっている。

天塩巖島神社は、明治42年9月に現在の川口基線へ遷座し、大正15年7月に改築、昭和17年拝殿落成、昭和52年拝殿内部を改修。平成22年12月には町民有志による「天塩巖島神社社殿修復期成会」が設立され、全町民からの寄付により翌年改修が行われた。

天塩町教育委員会では平成23年9月13日、天塩巖島神社から「天塩巖島神社社殿」を天塩町文化財保護条例に基づく有形文化財の指定申請を受け、天塩町文化財保護審議委員会議の答申により、同年10月28日、有形文化財の第1号として指定した。

天塩町では、史跡名勝天然記念物として運上屋跡、天塩駅通跡、渡船場跡など5か所、指定されている。

文化財の所在 天塩郡天塩町字川口基線 1226 番地
文化財の規模 拝殿 159.17 平方メートル 神明造
幣殿 14.82 平方メートル 切妻屋根
本殿 14.62 平方メートル 神明造
計 188.61 平方メートル



天塩町指定文化財(史跡名勝)

■ 運上屋跡

指定年月日	昭和 57 年(1982) 1 月 26 日
種 類	記念物(史跡)
所 在 地	天塩町海岸通 4 丁目 3975 番地の 2

文化 4 年(1807) 3 月、幕府は西蝦夷地を全域直轄すると奥地の交通施策を進めることとなり、場所請負人に対し区域を定めて道路の開削を命じ、各地の要所に通行屋を設け官馬を配備した。

一方、留萌・天塩沿岸では、寛政(1789~1800)の頃、増毛、留萌、苫前、天塩の 4 箇所運上屋が設置されたとあり、この頃に開設されたものと思われる。

先達によると、この運上屋は主に天塩場所の事務所や漁舎として利用、使用人はアイヌがほとんどで、後に番人として菊地和三郎がこの任にあたったという。

建物は大正元年(1912)まで現存したが、風で屋根が飛ばされた後、取り壊された。



■ 天塩駅通跡

指定年月日	昭和 57 年(1982) 1 月 26 日
種 類	記念物(史跡)
所 在 地	天塩町海岸通 2 丁目 23 番地の 1



天塩で駅通と呼ばれるものができたのは、明治 5 年(1872)といわれ、菊地和三郎が最初の取扱人とされる。この後、松岡隆三、鈴木栄三郎と引き継がれた。駅通では、宿泊のほか馬 4~5 頭を置き、郵便・荷物・旅行者の運送を取り扱った。

このほか、作返、雄信内、南雄信内にも駅通が開設された。

■ 渡船場跡

天塩川は川幅が広く、架橋が困難であったため、対岸へ渡る手段として、一定の場所を渡船場として船をあやつり、人や荷物、家畜を運んだ。新編天塩町史によると町内には 11 箇所の公設渡船場が確認されている。

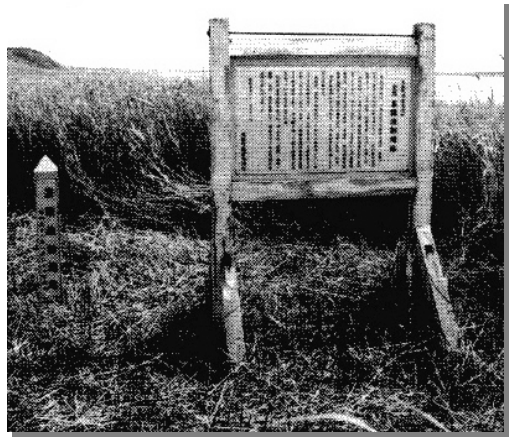
渡船は、大正末期からワイヤーロープによる渡河方法がとられたが、冬季には氷橋による渡河が行われた。

○ 基線渡船場跡

指定年月日 昭和 58 年(1983) 1 月 21 日
種 類 記念物 (史跡)
所 在 地 天塩町字川口

海岸に最も近い基線渡船場は、江戸時代に設置された最古の渡船場といわれ、間宮林蔵や松浦武四郎も利用したと推察される。また、この渡船場は地形的制約からワイヤー方式がとれず、櫓や櫂による船進方法に依ったとされ、昭和 32 年(1957) 6 月まで続いた。

記録に残る渡船取扱人は、村上五作、石岡、松崎、飯田、小野、渡會と続き、横島宇太郎を最後に終えんを迎えた。



○ 雄信内渡船場跡

指定年月日 昭和 59 年(1984) 2 月 29 日
種 類 記念物 (史跡)
所 在 地 天塩町字雄信内

雄信内渡船場は、天塩市街から六志内・西雄信内に通じる山道を経て、対岸への連絡場所として明治 10 年(1877)頃に設置され、昭和 5 年(1930)、雄信内大橋が開通するまで続いたとされる。

記録に残る渡船取扱人は、泉波為治、小林雅一と続き、高木松五郎を最後に終えんを迎えた。



○ 振老渡船場跡

指定年月日 昭和 59 年(1984) 2 月 29 日
種 類 記念物 (史跡)
所 在 地 天塩町字振老

振老渡船場は、札幌～稚内間の連絡渡船場として明治 43 年(1910)頃に設置され、昭和 32 年(1957) 9 月、上流にある天塩大橋が開通するまで続いた。

往時、渡船場周辺は雄信内に次ぐ市街地が形成され、昭和初期まで気楽町とも呼ばれた。

記録に残る渡船取扱人は、村上、元山と続き、青木源吉を最後に終えんを迎えた。

